

令和元年第2回西之表市議会定例会

所信表明並びに提案理由説明



おはようございます。

本日、ここに令和元年第2回西之表市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位には御出席くださいます、誠にありがとうございます。

6月に入り、梅雨の季節となりました。

豪雨災害など、災害に注意しなければならない季節でもあります。

さる、5月18日には屋久島で記録的な豪雨となり、300名を超す方々が山中で孤立する事態となりました。

翌日には、種子島より消防の部隊も派遣し、対応に当たったところ。20日には、屋久島町で水道施設が被災し、緊急に水が必要だということが判明し、職員2名を即日、直接屋久島に派遣し、緊急用の飲料水を車両2台で届けました。中種子町も同様な対応があったようで、種子島はひとつ、種子島、屋久島は一体だと実感したところでもあります。

嬉しい出来事もありました。

2020東京オリンピック聖火リレーの実施市町村として西之表市が決定したことが6月1日に発表されました。

すでにポルトガルのホストタウンとしても登録されており、6月11日には、総理官邸でホストタウン首長会議が行われました。私も出席し関係者との信頼構築に努めてきたところです。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、交流や基盤整備など種子島の活性化につなげていきたいと考えています。

それでは、議案説明に先立ちまして、本年4月以降の各種行事や事業の状況、各種施策の取り組みについて、ご報告したいと思います。

まず、市主催事業や地域行事、市民の皆様の活動などについてふれたいと思います。

4月14日には、柳原地区移住133周年記念祭が行われました。

今回は、岩切薩摩川内市長をはじめ、甕島関係者13名が来島し、式典に参列されました。

野木之平のトシドンを視察するなど、甕島のトシドンを現在も継承している野木之平地域の方と交流する機会もあり、種子島と甕島の強い絆を確認したところです。島民の人情や、来島者を温かく迎え入れる姿勢が後世に受け継がれ、今後も移住をめぐる各地域の友

好関係が維持され、地域づくりに大きく資することを願っております。

4月27日に種子島カップヨットレースが開催されました。当日は、風が強くうねりを伴うコンディションとなりましたが、参加艇10艇のうち8艇が無事制限時間内にゴールしました。

また、当日の夜は種子島ヨットまつりが開催され、ヨットマンを歓迎する催しのほか様々な屋台の出店もあり、一般市民も含め交流を深めることができました。

5月5日には商店街で市商工会青年部主催の「子供まつり」が行われました。当日は、大型客船の寄港とも重なり、観光客のほか、地元の家族連れでにぎわいました。会場では、国道の一部を歩行者天国にして、路面を画用紙に見立てた「まちなからくがきストリート」のほか子供達が参加する「さんりんしゃ競争」、女性消防団による「手作りかるた」等たくさんの催しが開かれました。まちを人が歩くという、にぎわいの原点を感じたところでもあります。

5月12日の、第17回生涯スポーツ大会は、市内4つの会場で、ソフトボール、グラウンド・ゴルフ、ミニバレーボールの競技に89チーム850名が参加し、若者から壮年、婦人、高齢者が相互の

親睦と融和を図り、楽しい汗を流しました。

5月14日から16日にかけて、学童疎開を縁として、伊佐市の本城小学校が住吉小学校、田中小学校が伊関小学校を訪れ、交流事業が実施されました。一部では民泊体験もなされて、直接市民の方々との交流も図られ、姉妹都市としての絆がより深まったのではないかと考えております。

5月25日と26日の2日間、種子島を舞台にした映画「ライフ・オン・ザ・ロングボード・セカンド・ウェーブ」の先行上映会が本市で行われ、4回で約900人もの入場がありました。この映画は「人間再生」をテーマにしており、若い主人公が、種子島でのサーフィンや地域の方々との関わりを通じて成長していく姿を描いています。5月31日からは全国公開され、6月8日には、鹿児島市の鹿児島ミッテ10で舞台挨拶があり、私も地元側の代表として、ステージに立たせていただき、監督・出演者への御礼と満席の会場へ向けて種子島・西之表市のPRを努めたところであります。今後は、この映画を通じて島外からの誘客を図るとともに観光振興に繋げてまいりたいと考えております。

続きまして、各種施策等の状況について報告をいたします。

まず、産業の分野、農林水産業の状況についてであります。

農業分野の平成30年度農業生産実績については、概算値ではありますが粗生産額が62億4千9百万円となっております。

29年度と比較しますと、子牛価格の好調とバレイショ生産量の増加によって、全体としては1億1千9百万円の増となりました。

主要品目の生産概要については、基幹作物であるサトウキビが5億9千2百万円で、平均反収5トン100キロ、生産量は2万9千174トンで甘蔗（かんしゃ）糖度の上昇（11.08→12.69）によって対前年度比5千5百万円の増収となりました。

種子島のブランド品目候補である安納いもは、11億3千4百万円で、1億1千万円の減収となりました。理由として、栽培面積において単価の低い加工用が増え、単価の高い青果用が減ったためです。

バレイショは、3億2千5百万円で、生産量の増加によって対前年度比1億2千8百万円の増収となりました。

畜産は、25億7千3百万円で、子牛出荷頭数の増加によって3千万円の増収となりました。

次に、鳥獣被害についてです。

被害金額は前年対比98.6%の4千3百40万円でありました。シカの有害駆除期間での捕獲頭数は2千5百頭で、元年度も引き続き捕獲目標2千5百頭としております。「守り」の対策である侵入被害防止柵の設置と合わせて、猟友会の協力による狩猟捕獲活動を支援し、効果的な被害防止対策に努めているところです。今後も、更に関係機関との連携を深めていきます。

林業については、各関係機関と連携して施業の集約化と生産性の向上を図りながら島外需要拡大に向けた輸送費の支援をした結果、林産品の島外出荷量が木材チップで4,768BDt（ビーディートン：絶乾重量）、製材で6万1千5百8立米の実績となりました。

水産業の状況ですが、資源状況の悪化や魚価の低迷、漁業就業者の減少及び高齢化、燃油価格の高騰など厳しい状況が続いております。

種子島漁協における本市の平成30年度の水揚げ総額は約3億4千万円、平成29年度との比較としましては、水揚げ総額において約2千8百万円減少しております。

主な漁業種をご説明しますと、種子島漁協全体の水揚げとはなり

ますが、平成29年度不漁でありましたキビナゴ刺し網漁業については、約2千2百万円増の3千8百70万円の水揚げ、モジャコ漁においては約3千2百20万円の増の9千4百70万円の水揚げとなっている一方、イカー一本釣漁においては6百60万円の減の1千9百50万円の水揚げ、ナガラメ漁につきましては、4百90万円の減で1千4百60万円の水揚げ金額となっております。

次に、観光・商工業の取り組みについてです。

大型客船の受入については、今年度すでに4月と5月の2回大型客船が入港し、約800人の観光客が訪れました。今後も、「飛鳥Ⅱ」や「ぱしふいっくびいなす」の寄港が予定されています。

市民の皆さんとともに、おもてなしを充実させ、定期的な寄港へと繋げてまいりたいと考えております。

また、販路開拓・情報発信等の取り組みとして、4月より、東京・浅草の「まるごとにつぼん」にてアンテナブースを設置しており、特産品や観光情報、ふるさと納税の推進も図ろうと思います。

まちづくりについては、平成30年度からスタートしました第6次長期振興計画に基づき、歴史と国際色豊かな港町の再生を図り、中心市街地（商店街）の活性化をめざすための「港町再生」に、引

き続き取り組んでいきます。

昨年度策定された「港町再生基本構想」に基づき、実施計画の策定のほか、中核施設建設や国道58号線の一方通行社会実験に向けた検討など、港町としての魅力を生かしながら、様々な団体・地域と連携し、広く議論を深めて参ります。

まちづくりに関しましては、重要港湾西之表港の港湾計画の見直しも進められています。

日本の中心である東京から南西諸島、沖縄、東南アジアを結ぶ結節点として、西之表港は非常に重要な位置を占めており、大型クルーズ船への対応等も念頭に、耐震強化岸壁の採用、埠頭、泊地の整備など、種子島、屋久島周辺地域の活性化に資する施設となるよう議論を進めたいと考えております。

今後の予定について述べます。

7月7日、14日の両日、第60回県民体育大会熊毛地区大会が本市をメイン会場として開催されます。7日にはあっぱ〜らんど多目的グラウンドで総合開会式のあとサッカーが行われ、美浜グラウンドでソフトボール男子、安納球場でソフトボール女子、また翌週

14日には、旧榕城中学校武道館で柔道、種子島高校で弓道と空手道、市民体育館でバスケットボール男女がそれぞれ行われます。選手の皆さんの奮闘を期待したいと思います。

8月25日には、種子島鉄砲まつりが開催されます。今回は、50回記念ということもあり、ポルトガル関係者の招聘や島内外の火縄銃隊約10団体による火縄銃大会のほか、前夜祭にはポルトガルの民謡ファドの演奏会など、盛大なまつりになるよう準備を進めています。

今年2月に2020東京オリンピック・パラリンピックにおけるポルトガルのホストタウンに登録されたことから、8月にはポルトガルからサーフィンの元世界チャンピオンをはじめ、関係者の来島のほか、元オリンピックとの交流も予定されています。

馬毛島についても触れておきたいと思います。

去る4月16日に馬毛島の地権者とお会いし、体験学習の実施について協力依頼をいたしました。承諾を得まして、本年度は7月22日に、昨年度より10名多い合計20名での実施に向け準備を進めているところです。馬毛島の利活用等について更に検討を深めて参ります。

また、地権者との会談の中で、社長交代以降、防衛省からの接触が一切ないことを確認しています。

あわせて、同日には、防衛省を訪問し、地方協力局長及び同次長と面会してまいりました。防衛省としては、これまで通り施設設置に向け推進する姿勢であることを確認したところです。

それでは、本日提案いたしました議案について御説明いたします。

本定例会に提案いたしました議案は、西之表市税条例等の一部を改正する条例など条例の一部を改正する専決処分報告4件、平成30年度西之表市一般会計補正予算など補正予算の専決処分報告5件、平成30年度西之表市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告など繰越関係の報告2件、西之表市公平委員会委員の選任など人事議案が2件、西之表市報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定など条例議案が4件、令和元年度西之表市一般会計補正予算など予算議案5件の合計22件であります。

主な議案について御説明いたします。

議案第1号及び第2号は、それぞれ人事議案で、法令により議会の同意及び意見を求めるもの、議案第3号は、選挙関連の執行経費について法令の改正に伴い条例を改正しようとするもの、議案第4号は10月に予定されています消費税等の税率の改正に伴い、関係条例を一括で整理しようとするもの、議案第5号は災害弔慰金の支給等に関する法律の一部改正に伴い条例の一部を改正しようとするもの、議案第6号は森林環境譲与税の創設に伴い、当該譲与税を基金として積み立て、適正に管理し、運用するため、条例を制定しようとするものです。

議案第7号から議案第11号は、令和元年度西之表市一般会計及び特別会計等の補正予算であります。

一般会計補正予算の主なものは、「社会資本整備総合交付金の決定により」道路新設改良費に1億1千6百10万2千円、国の補助事業として実施される「プレミアム付商品券発行事業を主なもの」として社会福祉総務費に2千8百52万3千円、新規事業となる「種子島のさかな魅力発見事業」を主なものとして水産振興費に871万円をそれぞれ追加。

そのほか、各費目に4月1日付け人事異動に伴う人件費を計上しております。

この結果、歳入歳出予算の総額に1億8千8百58万4千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ105億3千4百58万4千円とするものであります。

以上の議案につきまして、議員各位にご審議をいただきますようお願い申し上げます、私の市政に対する所信表明及び提案理由の説明といたします。

ありがとうございました。

令和元年6月17日

西之表市長 八板 俊輔